

エチオピア・フィールドスクールを終えて

—真の地域研究を目指して—

平成 19 年度入学

参加したフィールドスクール：エチオピア・フィールドスクール

調査地(調査国)：エジプト

連環地域論講座 木下博子

キーワード：フィールドワーク、超地域、宗教、イスラーム

1. 研究テーマ

研究目的

本研究は、現代インドネシアのイスラーム高等教育の現場における中東留学の意義を明らかにすることを目的とし、エジプトのアズハル大学に通うインドネシア人留学生を対象として考察を行った。

研究の背景

高度なイスラームの知を獲得するために中東地域へと赴く中東留学は、東南アジア島嶼部において 16 世紀中盤頃から現在に至るまで、何世紀にも渡り連綿と続く通時的現象である。留学先としてはエジプト、サウジアラビアが顕著である。本研究が対象としているエジプトでは、2009 年現在 5000 人を越えるインドネシア人留学生が学んでいる。彼らのほぼ全員がアズハル大学で宗教を学んでおり、東南アジアからの留学生のなかではマレーシアに次いで最大規模のコミュニティを形成している。

研究対象の特色

本研究の特色は、エジプトとインドネシアの二カ国でフィールド調査を行っている点に集約される。

これまでに明らかになった点

第一に、留学先で異なる地域出身の学生らとの交流によって、祖国インドネシアではなく、留学先のエジプトにおいてインドネシアの多様なイスラームを体験・目撃しているということ。第二に、留学経験者は、このように留学先で得た祖国の多様なイスラームへの知見を帰国後のキャリアに活用し、多様性を包摂した寛容かつモダンなイスラームを志向している点、である。

2. フィールドスクールで得られた知見

有意義な点

本フィールドスクールで有意義であると感じられたのは、スクール開始前にエチオピアの基礎知識を身につけるための座学が開催された点である。内容はエチオピアの食文化や宗教など多岐に渡っており、実際に現地に入ってから、状況観察を行う上で考察の切り口の増える情報が満載であった。また、本フィールドスクールでは実地演習が充実しており、我が国が従事する開発プログラムなど、多岐に渡る実務の現場を観察することができた。具体的には、現地のスタッフとの密な連携など、開発プログラムの舞台裏を垣間見るよい機会であったと感じる。全体として、本スクールに参加したことで実務に対する理解が深まった。

改善すべき点

上記のように、実地演習が非常に充実しており多くの演習が開催されたため、幾つかの演習のなかからどれに参加するかを選択しなければならない状況に何度か遭遇した。そのため、全ての演習に参加で

きるように、日程の調整を行う、あるいは演習数を増減するなどの対策をこうじて欲しい。

3. フィールドスクールで学んだことをどのように研究テーマにいかせるか？

本スクールに参加し、短期間ではあったが他国で生活を営むことの過酷さ、そして異なる文化・社会的背景や習慣を身をもって体験した。同時に、これまで自身の関心の範疇外にあった実務に対する理解が深まった。現在の研究対象地域はエジプトとインドネシアのみであるが、イスラームを学ぶために中東地域へ留学する学生は、湾岸諸国や他の東アラブ諸国にも多数存在する。これらの背景を踏まえ、1) エジプトだけではなく、他の留学生が居住する国々での広域調査を視野に入れ、2) 自身の研究テーマにとって重要であると考えられる要素以外にも積極的に目を向けていくことによって、あらゆる視点からの分析を行い、3) アカデミズムだけではなく実務にも貢献できるような、研究と実務を架橋する地域研究を目指す、以上の三点を今後の研究の指標としていきたいと考える。



写真1：実地演習の様子



写真2：野焼きの様子



写真3：昼食時、元気のいい子供たち